

# まきばでひとやすみ

涼しくなったネ



上の子がもう10歳になるのですが、当然のことながら、幼少期から知っている子どもたちもどんどん大きくなっているわけです。この前腕の中に抱いたばかりの小さな真っ赤な赤ちゃんが、いつの間にか一人でトコトコと自分の足で歩き、人間の言葉を話し、一人前に怒ったり説明したりしてくれる。その様子は何度目にしてもやはり感嘆してしまふのです。大人になってからの一年二年に比べ、小さな子どもたちの一年二年の変化、成長というもの

が、いかに濃くて、あらゆることを吸収し変化していくものか、をまざまざと見せつけられます。幼稚園の運動会で、生まれた数日後から知ってるあの子やあの子が、立派に宣言の言葉を述べ、ハキハキと踊り、かっこいい走りを見せる姿に、おばちゃん(私)は「あらまあ」とすっかり胸が一杯になってジーンとしてしまいました。我が子以外の子どもたちの写真もバシバシ撮っていたのでありました。自分の子どもは毎日見ているので大きな変化

には気付きにくいけれど、たまにしか会わない子たちの変わり様はわかりやすいですね。でも先日、小さなようすで大きな成長を感じたことがありました。風呂上がりの娘(4)は大体迎えに来てもらい、タオルで拭き、着替えを見守り：なのですが先日「自分でできる」と出てから、自分でタオルを取って拭き、着替えそして私がベッドへ行、た時には既に一人で寝てしまっていたのでした。その姿にキュンとしつつ、まだやってあげたい自分の気持ちに気付きました。親が子どもに何かしてやれる期間は意外と短く尊いのだと思っています。

ロバ子

20